

F2-58

『鎌倉絵図』にみる近世以降の観光資源の成立および継承に関する研究

—(その2)観光資源の継承状況について—

Study on the Establishment and Succession of the Tourism Resource after Early Modern Kamakura

-(Part2) Focus on succession of tourism resource-

○大淵雅己¹, 横内憲久², 岡田智秀², 押田佳子², 肥留川稜¹*Masaki Ohfuchi¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada², Keiko Oshida², Ryo Hirukawa¹

Abstract: Kamakura Ezu are tourism maps in early modern Kamakura. This paper aims to clarify succession of tourism resource. Therefore, we investigated the succession rate of tourism resource and their distribution. Conclusion, we clarified that tourism resource of early modern and their existences are succession.

1. はじめに

前稿では、江戸時代(以下、近世)に当時の観光者向けに出版された鎌倉絵図に着目し、そこに記載された観光資源の成立過程を明らかにした。

これらの観光資源の多くは、鎌倉時代以降、1200年以上におよぶ時間の経過の中で継承されてきたものである^[1]が、その過程において、神仏分離令や関東大震災などの外的要因により消失、変化してしまったものも少なくない。

これを踏まえ、本稿では観光資源の現状分布を明らかにし、これらの継承状況と分布特性を把握することを目的とする。

2. 研究方法

(1) 研究対象—前稿において、鎌倉絵図より抽出した近世の観光資源全 223 件に対し、現代の観光に関する資料を参照^[2]に、現存の有無を調べた。これにより、確認された全 145 件を対象とした。

なお本稿では、前稿で示した観光資源の分類のうち、地理的分布が明確にできる社寺、井戸、屋敷について分析した。

(2) 分析方法—上述した研究対象のうち、現状分布が確認できた観光資源の継承率を捉えた。

現状分布が確認できた観光資源は、分布特性を把握するため、その位置を現代の地形図^[3]上に布置した。また、観光領域は鎌倉絵図に記載された範囲を現代の地形図に投影して求めた。

Table1. Succession rate of tourism resource [表：筆者作成]

分類	総件数	現存件数	継承率
社寺	51件	48件	94.1%
井戸	13件	12件	92.3%
屋敷	5件	0件	0.0%
総計	145件	121件	83.4%

3. 結果および考察

(1) 観光資源の継承状況について—Table1 に鎌倉絵図より抽出した近世の観光資源の継承状況を、Figure1 に継承された観光資源の分布を示す。

Table1 より、本稿で対象とする近世の観光資源全 145 件中、現代まで継承されているものは 121 件であり、継承率は 83.4%と高い。

分類ごとの継承状況をみると、社寺は全 51 件中現存が 48 件と最多であり、継承率が 94.1%と高く、次いで井戸が全 13 件中 12 件で、継承率 92.3%と社寺とほぼ同様の結果となった。一方で、屋敷については、全 5 件中現存するものは無く、全く継承されていない。

これらの理由として、Figure1 に示す、「①鶴岡八幡宮」をはじめとする社寺は鎌倉の象徴的存在であり、近代に関東大震災などによって倒壊したものの、その貴重性より、優先的に復旧された^[4]ことにより、継承率が高くなったとみられる。井戸についても、「①鶴岡八幡宮」門前にある「⑬鉄井」のように、社寺に付帯しているものが多く、社寺とほぼ同様の継承率になったと考えられる。

一方で、近世において比較的重要度が高いとされた屋敷については、その形をとどめているものは存在せず、「尊氏屋敷」のように、跡や石碑としてみられるものがある。これは物理的に継承なされていないものの、地域の記憶として残されている例であるといえるが、地形図上ではこれが表出しないため、現状を知る手段が少ないことが示された。

(2) 現存する観光資源の分布

a) 分布の傾向—Figure1 より、観光資源は鎌倉街道沿いの「②建長寺」や「③円覚寺」が分布し、金沢街道沿いには「⑥浄妙寺」や「⑦杉本寺」、若宮大路沿いの「⑩大巧寺」など、「①鶴岡八幡宮」を中心に、鎌倉絵図 5 枚以上

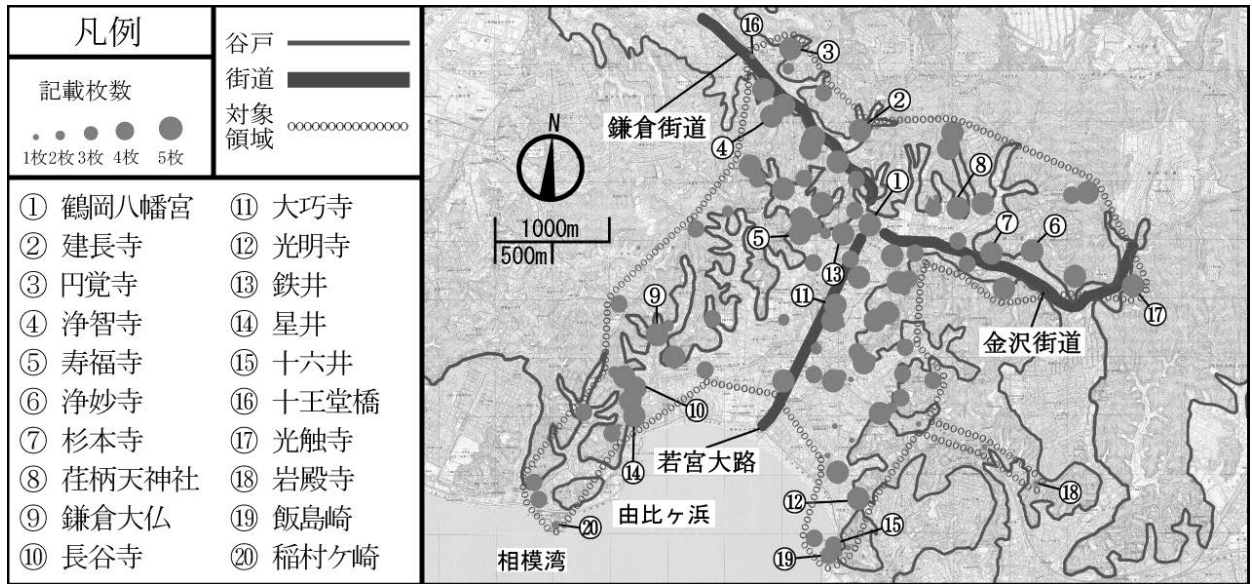


Figure1. Distribution of succession tourism resource. and area of tourism

[図：筆者作成]

に記載される有名社寺が集中していることがわかる。

街道沿い以外の分布に着目すると、「⑨鎌倉大仏(高德院)」や「⑫光明寺」など、鎌倉五山に準ずる社寺が鎌倉特有の谷戸と呼ばれる地形に点在していることを捉えた。一方で、由比ヶ浜周辺の沿岸部や山中にはほとんどみられなかった。

以上より、現存する観光資源は、街道のように鎌倉の内外を繋ぐ導線上や谷戸に多く見られ、社寺の立地に適しただけでなく、交通の利便性などから、結果的に継承されやすかったことによる。

b) 観光領域—Figure1 より、鎌倉絵図の観光領域を現代の地形図に投影すると、「⑯十王堂橋」、「⑰光触寺」、「⑱岩殿寺」、「⑲飯島崎」、「⑳稲村ヶ崎」が隅を取る形状となった。鎌倉絵図における観光領域が長方形に収まっていたのに対し、現状でこのような複雑な形状を示す要因として、鎌倉絵図が測量技術に依る正確な地形を表現したものでなく、当時の人々が考える「鎌倉」の要素が詰め込まれたものであったためと考えられる。

以上の結果より、鎌倉絵図における観光領域は、地形図上に、現代の鎌倉観光の領域とほぼ同様のものとして投影できるが、「⑲飯島崎」が逗子市内にあるように、行政界において分断されるものを含む。このことより、自治体間におけるかつての観光領域の共有の必要性が認められたといえる。

4. 小結

前稿で得られた近世の観光資源の継承状況を明らかにし、現代の地形図上に投影した結果、社寺と井戸は継承率が非常に高く、街道沿いや谷戸を中心に現在も分布することを捉えた。

さらに、鎌倉絵図における観光領域は、概ね現代に

継承されたといえるが、現代の行政界で分断されていることが明らかとなった。

5. おわりに

本研究では、鎌倉絵図の縦図に着目し、観光資源の成立および継承状況を把握した。

その結果、近世において重要な観光資源があった社寺やそれに付帯する井戸は、近世の時点で定番の観光資源として確立されていたことを捉えた。

これらの大半は、主要街道や谷戸などの鎌倉における要所に、その重要性を担保したまま継承されることを導いた。

また、当時の観光領域は概ね現代の地形図上に投影することができ、鎌倉観光そのものを現代に継承していることが示された。

しかしながら、領域内の観光資源の一部が鎌倉市外に立地したり、屋敷のように形を変えて継承されたものが表出しないなど、将来的にこれらが淘汰される可能性も垣間みえた。

このことより、今後も鎌倉観光を継承していくためには、消失、変化したものについても追跡調査をする必要があるといえる。

6. 参考文献

- [1] 押田佳子:「紀行文より捉えた近世鎌倉における観光経路および滞在拠点の成立過程に関する研究」, ランドスケープ研究, Vol.74, No.5, pp.431-436, 2011.
- [2] 鎌倉市観光協会: 鎌倉市観光協会 HP <http://kamakura-info.jp/>, 2013.09.14.閲覧日
- [3] 国土地理院:「1万分の1地形図」, 国土地理院発行, 「大船」「港南台」「鎌倉」「逗子」, 2004 発行
- [4] 押田佳子:「近代鎌倉における古都観光の継承状況に関する研究」, ランドスケープ研究, Vol.76, No.5, pp.593-596, 2013.